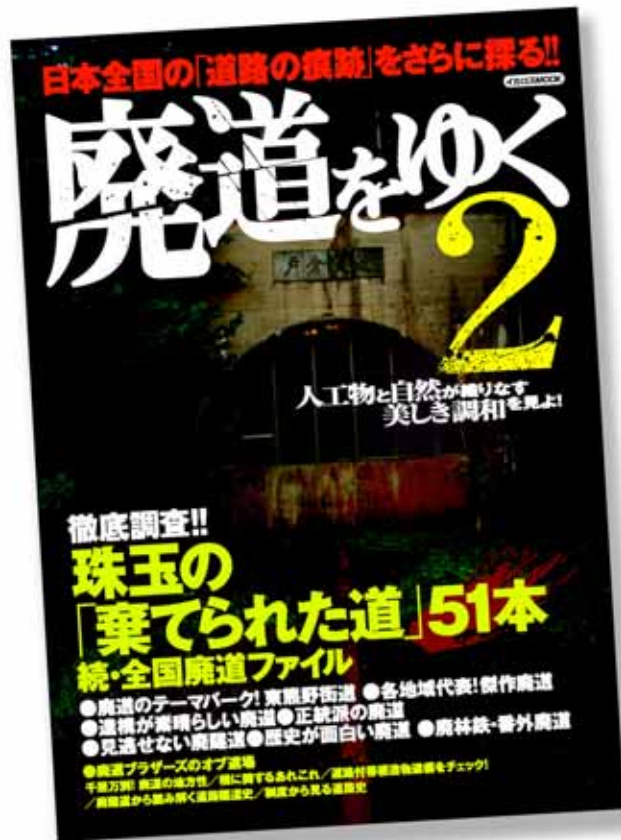


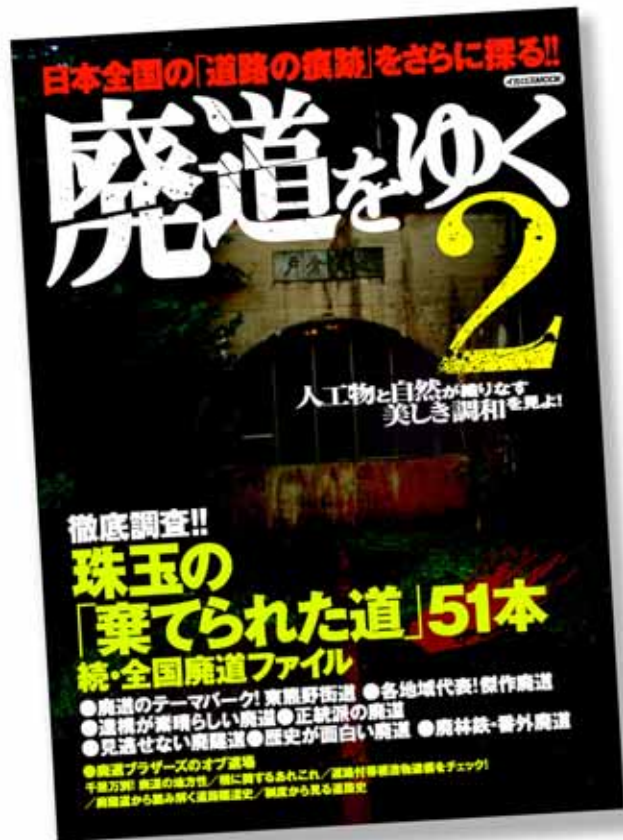
# あなたはもう 入手しましたか？



## 廃道をゆく 2

Now On Sale!

# まだの方は今すぐ！

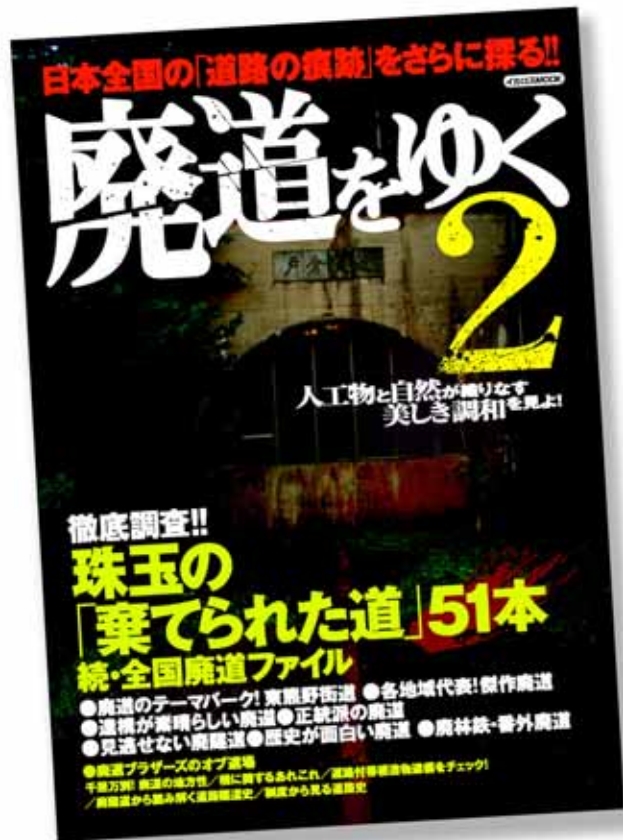


## 廃道をゆく 2

Now On Sale!

※未承諾広告

# 入手済の方は もう一冊！

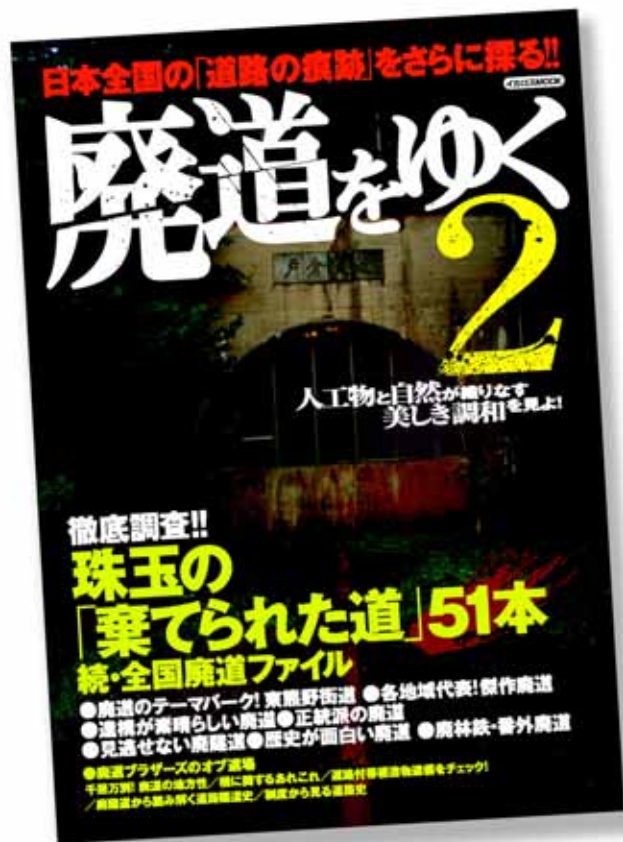


## 廃道をゆく 2

Now On Sale!

※未承諾広告

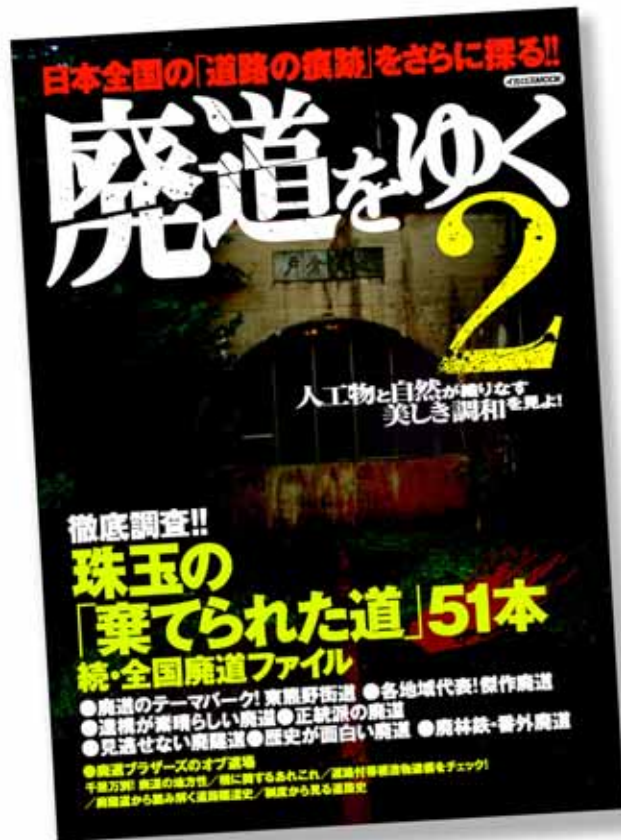
# お友達にも薦めて 廃道の輪を広げましょう。



## 廃道をゆく 2

Now On Sale!

# お友達いない人は…

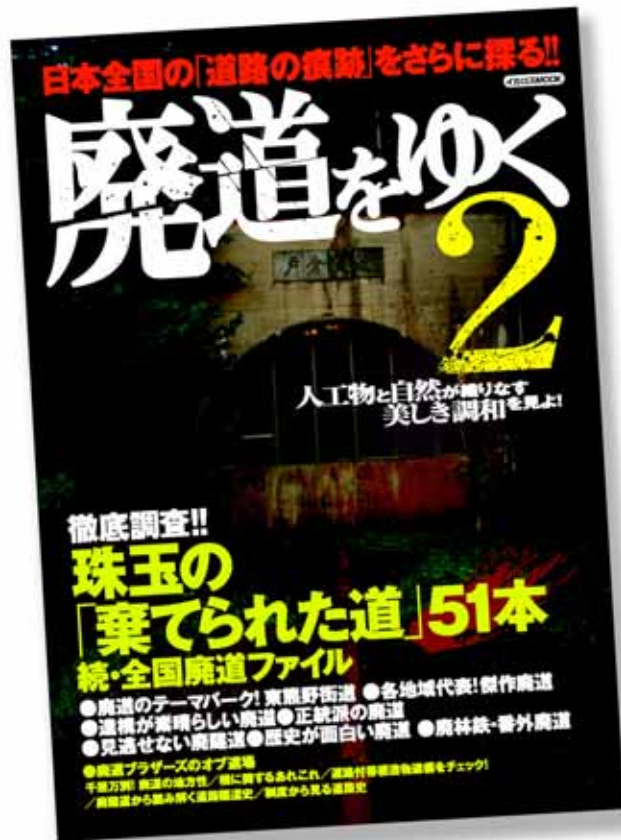


## 廃道をゆく 2

Now On Sale!

呼んで? (3)

ええと…

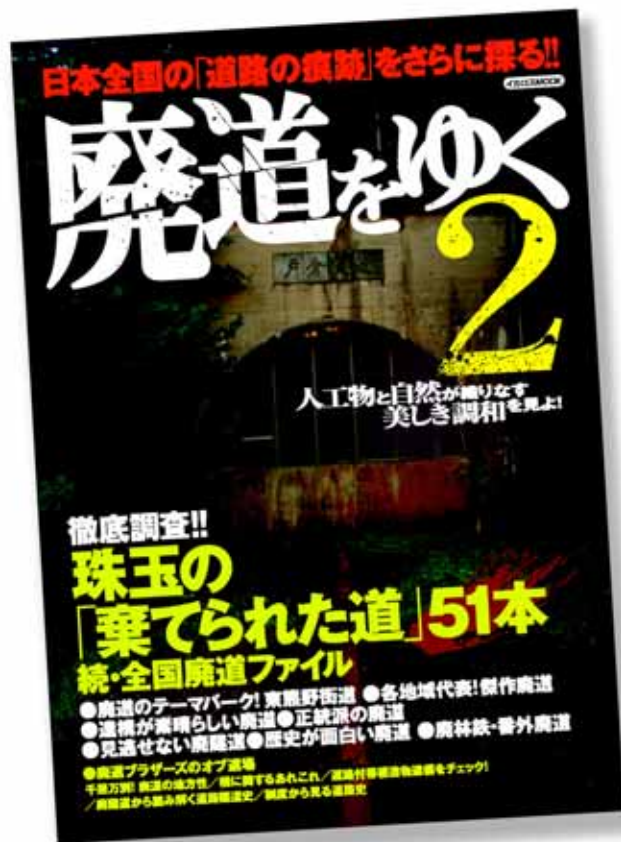


# 廃道をゆく 2

Now On Sale!

ボクガ  
トモダチニ  
アゲアゲヨ!  
Q

# 閑話休題。

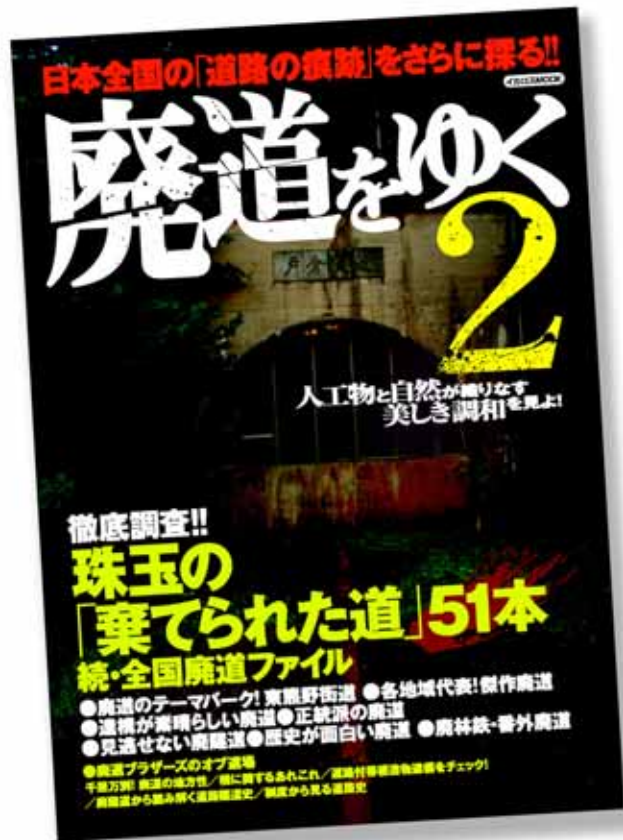


# 廃道をゆく 2

Now On Sale!



# こんな内容です。



## 廃道をゆく 2

Now On Sale!



ROUTE GUIDE

御母衣湖周辺の廃林道群と六厩川橋

- 森茂林道→
- 六厩川橋→
- 庄川林道→
- 小箕谷隧道→
- 六厩川林道



3本の林道中、2本正解、1本はずれ

一帯の廃道群における大ボスである六厩川橋へ、3本の林道が三方から目指す。だが、最も距離の短い庄川林道は途中にある秋町隧道が水没で通れず、残りの2本が辛うじて結ばれているもの、それぞれ5kmを越す廃道を含む。



1 森茂林道の最高地点である森茂峠(海拔1112m)。ここを越えると10m近く下り続けるが、万が一通り抜けを断念した場合は、上り直さなければならなくなる下り。そう思うと楽くない。



2 昭和40年代の廃村化まで、数百年の歴史を下らなかつた森茂集落跡。小学校の分校や営林署の官舎、森林軌道の終点などの施設があった。写真は白山神社跡の石段だ。



3 残り3km地点付近で、ほとんど路盤は川の中へ。激流がコンクリートの路肩を侵し、道全体を川の中へ引きずり込んでしまったのだ。こんな廃道、そうは見られない。



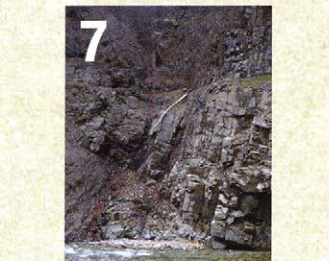
4 どうにも林道が通れなくなり、谷底に降りた状態で、林道のあるはずの場所を見上げて撮影。3本のルートはそれぞれ険しいが、崩壊の規模は森茂林道がワーストだ。



5 溜まり始めた湖水の機嫌を窺いながら、満水時は湖底となる川原を少しずつ前進。なんて大きな廃橋だ！これで実際以上に立ったら、どんなに大きいのだろう！興奮で足が濡れるのにも気付かない。



6 六厩川橋のすぐそばに口を開けている小箕谷隧道。秋町隧道と違って通り抜けが可能。なお、洞内は経費削減のためか、あるいは断層帯を緩衝するためか、2ヶ所にわたって素掘のままになっている。



7 六厩川林道も路盤崩壊のため通れず、六厩川の谷底へ下ったの迂回を開始する。写真は小箕谷隧道の東口を見上げて撮影。中央やや上の切り口に坑口が見えている。よくこんな所に道を通そうと考えたものだ。



8 秋町隧道南口から覗いた洞内。全長は約300mだが、崩壊のためほとんど北口の光は見えない。しかし、通り抜けが出来ない本当の理由は、水深2mを僅に超える水域が全体に広がっているためだ。



9 庄川林道の廃道化地点は、庄川側の林道起点から9kmの地点にある。そこには2本の短い橋がくの字に繋がっている。珍しい線形がある。

スコイ  
道槽のある  
廃道 1

御母衣湖周辺の廃林道群と  
六厩川橋



幻の  
巨大廃吊り橋  
あらわる!!  
周囲の道は完全崩壊!  
遭難一歩手前で発見!!

DATA

- 位置 岐阜県高山市～白川村
- 開設年 1959(昭和34)年
- 廃止年 昭和50年代
- 探検年月 2009年9月



これが六厩川橋だ。私はしばし放心した。この背後では、道ならぬ姿となった森茂林道と六厩川林道が丁字に結んでいる。橋自体は庄川林道に属している



庄川林道(と六厩川橋)が廃れる直接の原因となった秋町隧道。これはその北口で、一連の廃道群では最も到達に手間取る場所だ。なぜなら、この隧道は通り抜けられないため、庄川方面から来る事が出来ない

3 廃道集合地点にある  
超巨大廃橋を目撃せよ

岐阜県高山市から白川村にかけての山中には、北東に森茂林道15km、南東に六厩川林道16km、南西に庄川林道14kmと、いずれ劣らぬ長駆の林道たちが伸びている。その中心に君臨する巨大吊り橋・六厩川橋は、10年以上前から廃橋との情報があった。

この橋の現状を確かめるのに、延べ24時間を超える探索を要したが、結果わかったことといえば、この橋へ続く3本のルートすべて橋から5km圏内は完全な廃道だということ。さらに車止めはそれよりずっと遠くにあり、自転車を使わないと日帰りの往復は難しいほど。

これほどオプローダーにとって挑戦的なシチュエーションというのは、そうあるものではない。3本の廃道には橋があり、隧道がある。見るべき物はあまりに多いが、欲張ってはならない。その愚を犯した私が這々の体で六厩にたどり着いたのは、真夜中だった。一歩間違えれば、遭難だった。

林鉄の水没補償として  
多くの林道が整備される

六厩川橋に集合する3本の廃林道は、その立地から予想される通り、御母衣ダムと関わりが深い。ロックフィル形式では日本最大の規模を誇る御母衣ダムは、19

61(昭和36)年に完成した。ダムによって誕生した御母衣湖は、旧庄川村中心部を含む広大な面積を水没させたが、その中には名古屋営林局の管理する森茂林道と六厩川線という森林軌道があった。森茂林道と六厩川林道の大部分は、水没した森林軌道の補償として、また庄川林道は、湖によって孤立する右岸山地へのルートとして、それぞれ1959(昭和34)年前後に完成したものだ。

だが昭和40年代中頃には、スキー場建設計画(後に中止)の煽りを受けた森茂集落が無人となり、庄川林道の要にあたる秋町隧道も落盤で通行不能に陥るなど、六厩川橋への道は徐々に細まった。庄川林道の任務は一時六厩川林道が引き継いだ。この道も崩れやすい白山火山灰質の前に、長くは保たなかつたようだ。ダム建設による地下水水位の上昇や、山腹を切り裂く林道の建設、それらが引き金になったと疑われる崩壊は積み木崩し連鎖を呼び、3本の林道を手の付けられない状況に変えている。湖面に優雅なシールエットを落とす六厩川橋も、誰にも看取られぬまま朽ち果てようとしている。



ところで…  
この記事

# ROUTE GUIDE

## 国道422号 野又峠 楠木橋～野又峠～池ノ谷

もはや本格的な山登り！  
本格的な山越え廃道のため、一日で全線踏破し、スタート地点に戻ってくるのは難しい。  
野又峠南側の谷筋を下る道や、周回コースに使えそうに見える池坂越も廃道状態なので覚悟されたい。  
北側の尾根筋道は仙千代ヶ峰登山道として整備されているのでエスケーブルートに利用できる。



1 国道422号のおにもりもある楠木橋のたもとから杉林を直登していくと峠道に出る。出だしはひどい藪だが、少し進めばこのような大木が出現！道幅は2間弱(実測3m)で、軽トラックなら楽に走れるだろうといったところ。

2 この地方特有の団いンダが生い茂る。地元猟師が「オニシダ」と呼んで黙るシダだ。写真の場面はまだいいが、胸の高さを越えて繁茂している箇所もあり、そうなるともう踏み分けて進むことも刈って進むこともできない。

3 3段の大つづらで登り上げる箇所は全面崩落で失われている。これをバスするため、大野内の砂防ダム付近から送電線保守路で登り直さねばならない。到着した場面(写真)はちょっと幅広い山道には見えませんが……

4 しばらく進めばこの通りの車道幅に。以降路線は崖崩れと植生によって埋れがちになるが、谷側の路肩石垣が頼りになる。どんな場面でも必ずこの路肩石垣が現れ、道であったことを教えてくれる。

5 30年ほど前まではバイクで行き来していたと聞いたが、元々地質が弱いのか、それとも2004(平成16)年の大水害が異常だったのか、写真のような大崩落が随所で待ち構えている。谷底まで行って行かれており、命懸けで渡らなければならない。

6 この辺り、地形図には描かれていないが大規模な岩壁が続いている。道はその岩壁を振り回して通したかのよう。山手は見上げるような垂直崖だし、足元は落ちたらただじゃ済まない切れ落ち方、背筋が凍る。

7 幅3mのブチ抜き。威厳さえ感じられる切り道は異世界への門のように思えた。事実ここから先が正念場になる……。峠直下のつづら折れが丸々消失して、地形図破線道さえ見つかからない。道が途切れた所で直登していくしかない。

8 登山道区間を外れ、つづら折れにさしかかろうという刹那、このヌケが出現する。以降3本のヌケが立て続けに発生し、それらが下流で合わって、全てを押し流してしまっている。残された断片も激しく数化してドレーズを拒む。

9 つづら折れの東端付近にころうして残っていた石垣。植生に覆られていてわかりづらいが、写真の視点場から3段の石垣(=3段のつづら折れ)を見通すことができた。すべてが残っているうちに歩いてみたかった……

路線最大の懸せ場・断崖へつり、道幅を稼ぐために無理して掘り込んだ山手法面が泣かせ



上/かつて陸軍の騎馬部隊が通り、幕営したこともあるという野又峠。そんな歴史を語ることなく山中に眠る下/峠北に残る大石垣。思い切った土工の数々に、携わった人々の思いの丈が窺い知れる

### 正統派の廃道 1 国道422号 野又峠

DATA  
位置: 三重県多紀郡大台町～東牟婁郡紀北町  
開設年: 1907(明治40)年頃  
廃止年: 不明(昭和40年代には通行あり)  
探索年月: 2009(平成21)年5月



完膚なきまでに  
廃道!!  
かつての立派な道も  
今ではズタズタに

不通国道を演出する時の知られざる過去と現在  
近畿を代表する未開通国道・国道422号。いかにも無理矢理繋げたという路線上に2つの未開通区間があり、そのうち1つが野又峠である。前後6kmもの不通区間は「なぜこの峠が国道に？」と思わせるが、実はこの峠、かつて車道として生を受けたものだった。しかもそれは明治末の出来事、いわゆる「明治道」なのだ。  
町史によれば、1907(明治40)年、周辺4村が連名で計画し、県に対して工費補助を申請した記録がある。1911(明治44)年測量の五万分一地形図(大台ヶ原山)には出来上がったばかりのこの道が描かれている。しかも大杉谷側には目を疑うようなつづら折れが……  
現地には確かに道があり、あまつさえ、当時山間部に作られた道としては最上等の規模だった。東側の門扉のごとき切り通し、岩場に付けられた断崖道などは明治道とは思えない偉容だ。ただし全線が「完膚なきまでの廃道」である。詳細はガイドを見ていただきたい。焦点となるはずのつづら折れも、2004(平成16)年にこの地を襲った台風によってズタズタになっていた。崩壊を乗り越えて最上段、2段目、3段目まで辿れたが、それ以下はもう、この世に存在しない。筆者は抜けるのに丸一日かかった。地元の方の御厚

意であらかじめ宿が確保できていたから良かったものの、そうでなければどこかでビバークしなければならなかっただろう。  
忘れられた車道廃道は「郡道」だった!?  
現地で面白いことを伺った。この道は今でも「郡道」と呼ばれているというのだ。郡道は1920(大正9)年の旧道路法で制定され、その2年後には郡制ともども廃止されたという、幻の路線区分。しかし調べてみると郡道であった過去はなく、1923(大正12)年4月調の三重県統計書に「大杉谷長島線」という名の県道として記載されているのが公式記録の初出だった。これは何を意味するのだろうか？  
大正以前にも「郡道」は非公的に存在していた(本誌P.96参照)。そういう道として作られ、正式認定されることなく郡制廃止の憂き目に遭い、結果、県道として世に現れることになったのかも知れない。そもそもこの道は道のりの長さがネックとなっており、あまり使われなかったとも伺った。当初の名前が末代まで伝わるような大事業でありながら、役割を全うすることなく廃れ、国道誘致の呼び水になつた今でも不通なうえ復旧も見込めないほど廃道化しているところ、この道の真の悲哀がある。

**訂正があります**

時間不足で  
調査が至らなかつた  
ところを...

徹底的に  
調べ直しました

そのうち  
記事にします



広告  
おしまい。

「送料をゆく2」  
購入者ハ  
無料  
...ダヨJK  
ニヤ

